



「着衣着火」に注意しましょう！！

令和8年に入り名取市消防本部管内の1月の火災発生件数は、5件発生しており内2件は、着ている服に火が燃え移ってしまう「着衣着火」が発生しております。寒い時期は、ガスコンロでの鍋料理やストーブなどの暖房機器等で火を扱う機会が増えますが、空気の乾燥により火災が発生しやすい状況です。コンロやライター、ロウソクなどの火が着ている服に燃えうつると、重いやけどや死亡に至ることが非常に多くあります。火を扱う際は、以下のことに注意して着衣着火を防ぎましょう。

1. 火に近づきすぎないようにしましょう

手を伸ばしたり、かがんだりすると、意図せず体が火に接近する可能性があります。

2. 火力の調節とこまめな消火を心掛けましょう

調理の際は、炎が鍋底からはみ出さないように気を付けてください。

「ながら掃除」などはせず、火のそばで作業するときは一旦火を消しましょう。

3. 服装に注意しましょう

毛足の長いものやゆったりとした服や袖が広がったデザインのものなど、火のつきやすい衣類を身につけて、火に近づかない。

4. 仏壇のろうそくにも注意しましょう

ろうそくの火が灯った状態で仏壇周りで手を伸ばすような動作により、着衣着火している事故が発生しています。供え物の花を替える際や、掃除する際は、ろうそくの火を消しましょう。

5. 火の周囲にも注意しましょう

風が吹くような場所は、着火すると燃え広がり大変危険です。また、引火しやすい液体等が付着したままの服で火に近づかないでください。

6. もしも「着衣着火」してしまったら

近くに水場や消火器がある場合は、着火箇所に水をかけるなどして消火してください。また、衣類を素早く脱ぐことができる場合は、服を脱いでください。服が脱げず、また近くに水や消火器が無い場合は、「ストップ、ドロップ&ロール（止まって、倒れて、転がって）」を実践しましょう。パニックになって走るなどしてしまうと、風によって酸素が取り込まれ火の勢いが大きくなってしまうおそれがありますので、まずはその場で止まってください。そして、体と地面の間にできるだけ隙間がないよう地面に倒れ込み、燃えているところを地面に押しつけるようにしながら左右に転がることで消火させます。また、両手で顔を覆うようにして顔へのやけどを防ぎましょう。慌てず、落ち着いて対処しましょう。

令和7年（1月～12月）の火災の概要

名取市の令和7年の火災件数は15件で、火災種別の内訳は、建物火災が9件、車両火災が2件、その他の火災が4件でした。火災による死者は建物火災で1人出ています。

火災種別での出火原因は件数の多い順に、建物火災9件については、「電気機器」4件、「ストーブ」2件、「たばこ」「配線器具」「その他」がそれぞれ1件となっています。

その他の火災4件については、「電灯・電話等の配線」「たばこ」「その他」「不明」がそれぞれ1件となっています。

車両火災2件については「たばこ」「不明」がそれぞれ1件となっています。

令和7年（1～12月）と令和6年（1～12月）の火災件数等の比較

	令和7年	令和6年
火災件数	15件	9件
建物火災	9件	6件
林野火災	0件	0件
車両火災	2件	1件
船舶火災	0件	0件
航空機火災	0件	0件
その他の火災	4件	2件
火災による死者	1人	0人
火災による負傷者	0人	3人
原因別出火件数		
放火	0件	1件
電気機器	4件	2件
配線器具	1件	0件
内燃機関	0件	1件
電灯・電話等の配線	1件	0件
ストーブ	2件	0件
たばこ	3件	0件
火入れ	0件	1件
その他	2件	2件
不明	2件	2件